

知っ ところ！災害時への備え！

~もしもの時に備えて~

守口市水道局

— は じ め に —

近年、地震や台風などの大規模災害が頻発し、各地に大きな被害をもたらしています。

2025年1月には30年以内に発生する確率が「80%程度」と言われている南海トラフ大地震では、地震による揺れや津波、火災などによる被害が広範囲におよび、家屋の倒壊、焼失などによって多大な被害が生じると言われています。

このような大規模な地震などが発生した場合、配水管の破損、漏水多発による配水池の水位低下など水道施設も被害を受け、また停電などによる送水停止などにより、市内全域で断水が発生することが想定され、その場合には、蛇口から水が出なくなり、お風呂やトイレも使えなくなります。

このような場合、水道局において、応急給水場所で給水車による応急給水を行うとともに、災害によって破損した水道施設（管路を含む。）の復旧作業を行います。

しかし、被災状況などによって応急給水が遅れたり、給水拠点箇所が縮小されることもあり、また、水道施設の復旧作業も時間を要します。

このような状況であっても、水は必要不可欠なものですので、いつどこで起こるかわからない災害への備えとして、日頃から皆さんで水を確保するようにしましょう。

災害が起きる前にできること！備えましょう！！

皆様のご家庭では、災害に備えた準備をおこなっていますか？
大きな被害につながる地震も、いつどこで起きるか分かりません。
災害は起こってからでは遅いので、今から災害に備えましょう！



- ハザードマップで周辺地域の災害リスクを把握する
- 避難所や避難経路を確認する
- 乾電池、携帯ラジオ、充電器、モバイルバッテリーなどの消耗品
- 水、食料、薬、衣類、衛生用品などの生活必需品
- 暑さ・寒さ対策用品（経口補水液、冷却タオル、毛布、カイロ） ...etc.

お子さんのいるご家庭ではミルク・紙オムツ・離乳食など、介助を必要とするご家庭では持病の薬（お薬手帳）・杖・介助食など、ご家庭の事情により備えるものはさらに多くなります。

命をつなぎとめる

水



作成:「健康のため水を飲もう」推進委員会

災害時の備えとして必要なものはたくさんありますが、その中でも最も必要なものは「水」です！

人間の体は約 60% が水分で作られています。

水分摂取量が不足すると、重大な健康障害が現れ、2～3日で命の危機にさらされるとも言われています。

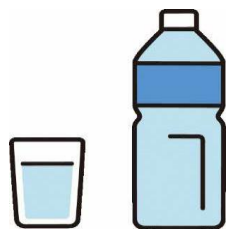
みなさん！ご存じですか!?

人が生きていくために必要な1日の水の量

- ✓人は水の摂取と排泄を繰り返すことで生命を維持しており、1日の摂取量と排泄量はどちらも2.5ℓとされています。
- ✓これに少しの余裕を加えて**1人1日3ℓ**の水が必要とされています。
- ✓災害に備えて**1人1日3ℓ**の水道水を**最低3日分**程度くみ置きをしましょう！

※災害発生から応急給水
活動体制が整うまでの目安

CHECK!  **※大規模災害時には1週間分の飲料水の備蓄が望ましい**



水道水のくみ置き方法



- ① 清潔で蓋のできる容器（ペットボトルやポリタンクなど）を用意する
- ② 細菌の繁殖を防ぐため、水道水で綺麗に洗浄する
- ③ できるだけ空気に触れないよう、蛇口から水道水を①の容器に口元一杯まで入れて蓋をする

- ✋・浄水器を通したり沸騰させた水は、消毒用塩素が含まれず備蓄には向かない
- ✋・消毒用塩素の持続効果は、日陰の風通しの良い場所で夏場：3日 冬場・冷蔵庫：10日程度
- ✋・水温が高いと塩素の持続効果は早くなるため、早めに入替えを行う

- ④ 保存した水を飲料するときは、煮沸してから飲料する



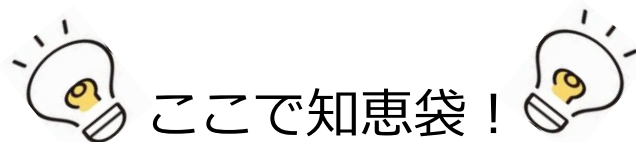
市販のボトル水などを保存するときは、保存方法・賞味期限などを確認しましょう！！

保存期間が過ぎても大丈夫！

有効活用しましょう！！

☑ 保存期間を過ぎた水は、掃除・洗濯・トイレを流すときなどの生活用水として再利用可能！！

☑ お風呂の溜め置きも有効ですが、衛生面・安全面に注意が必要！
トイレを流すときは、排水機能が正常か確認してから流しましょう！



1 : 2リットル入りのペットボトル3本に番号を付け冷蔵庫で保存

2 : これらを順番に飲み水や料理に使う

3 : 1本が空になったら新鮮な水道水を補充する

4 : 次の順番のペットボトルを使用し、これを繰り返す

常に4リットル(2本分)以上の
備蓄をすることができるよ！！



応急給水を受けるための準備

大規模災害等により断水が発生した場合には、給水車などによる応急給水を行います。
応急給水場所には、水を入れるための容器が設置されていない場合がありますので、
各ご家庭でご用意ください。また、水を運ぶための道具もご用意ください。

【水を入れる容器の例】

- ・ 給水袋
- ・ ポリタンク
- ・ ペットボトル など

【水を運ぶための道具の例】

- ・ キャリーカート・台車
- ・ リュックサック
- ・ 買い物かご など



※水は1ℓで1kgの重さがあります。ご年配の方は水を運ぶための道具があると大変便利です。

応急給水場所・給水方法を紹介します！！

✓市内の応急給水場所は

水道局配水場
(局庁舎南側)

大枝公園東側
(北東部入口付近)

東郷配水場
(東郷東児童公園)

のほか、災害状況に応じて
応急給水場所を決定します。

✓給水方法は原則として応急給水場所に仮設水槽を設置し給水をおこないます。

✓配水管の復旧が進むにつれ、消火栓に仮設給水栓を設置し応急給水場所を拡充していきます。

令和6年1月に発生した能登半島地震で
守口市水道局が行った応急給水活動



自衛隊のタンクへ補給する活動



給水車から直接給水する活動



受水槽へ補給する活動

医療機関など人命に関わる
重要な施設へは、受水槽に
水道水を補給します。

水道局配水場
(局庁舎南側)



八雲北町3丁目37番31号

大枝公園東側
(北東部入口付近)



東光町1番 北東部付近



東郷配水場
(東郷東児童公園)



東郷通1丁目5番付近

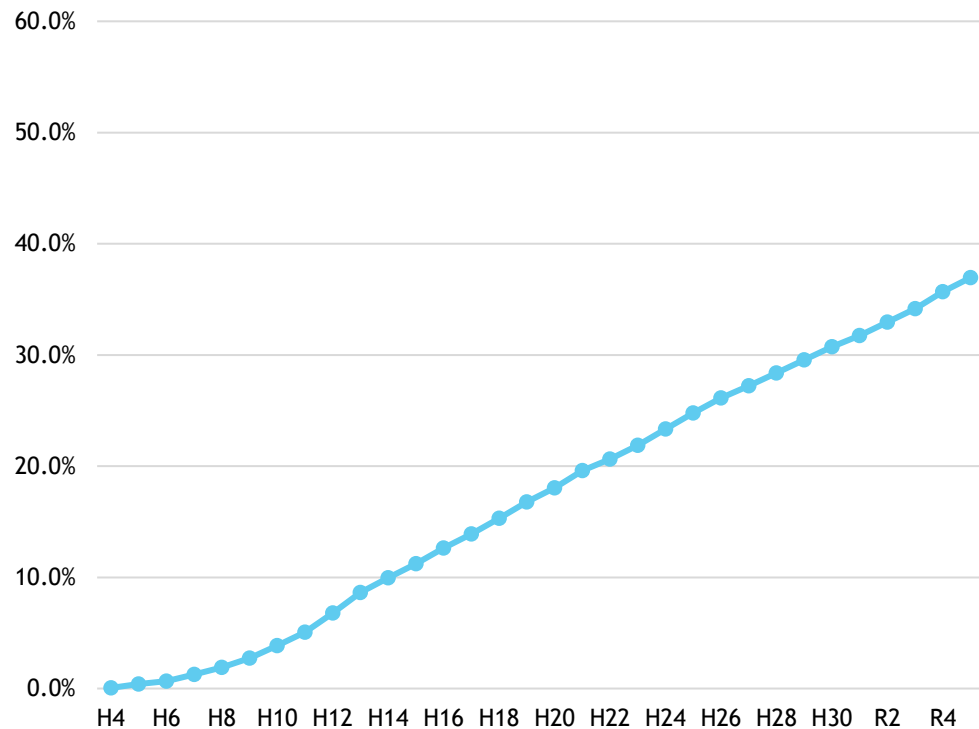
※応急給水場所の開設には時間がかかります。また被害状況により、開設できない場合もあります。

※災害時には、水道局ホームページやSNS等で最新の応急給水場所を確認してください。

災害予防編①

～老朽化した水道管の耐震化～

水道管の耐震化率



守口市内には、水道管が全長約 3 1 6 km 埋設されています。（令和 5 年度末時点）

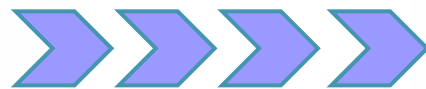
水道局では、このうち経年化した水道管に優先順位をつけ、計画的に取替えることで耐震化の向上に努めています。



大規模地震発生時に、皆さんに水を安定して供給するためにも必要なんだ！

- ✓ 水道局では「铸铁管」と「ダクトイル铸铁管」を、「耐震継手型ダクトイル铸铁管」という耐震性が高い水道管に取替えています。
- ✓ 「ダクトイル铸铁管」とは“これまでの铸铁管と比べ、強靱で延性のある金属管”のことをいい、その中でも「耐震継手型ダクトイル铸铁管」は、地震による揺れにも強く「耐震管」とも呼ばれていて、耐用年数も一般的に60年～80年となっています。

耐震管のイメージ



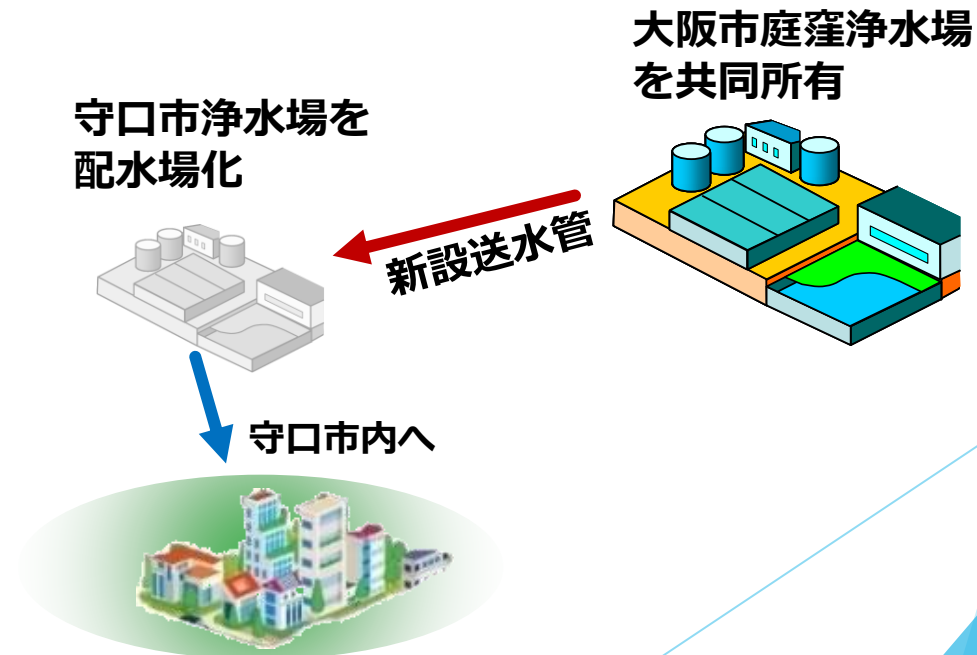
(一社)日本ダクトイル鉄管協会提供

災害予防編②

～浄水施設の共同運用(広域化推進事業)～

市浄水施設の老朽化対策及び府域水道の基盤強化を見据えた広域化推進事業として、令和元年12月に大阪市と「大阪市庭窪浄水場施設の共同化に向けての基本協定」を結び、令和6年4月から大阪市の庭窪浄水施設を大阪市と共同で所有し、運用しています。

この大阪市との庭窪浄水場共同化により、市の浄水施設の耐震性が増し、安全性が向上しました。



災害予防編③

～配水施設再構築計画～

浄水施設（水をつくる施設）は共同運用しましたが配水施設（つくられた水を貯めて市内に送る施設）は継続して既存施設を使うこととなります。

既存施設の大部分は更新時期を迎えつつあるため、使用しなくなった浄水施設を段階的に撤去し、老朽化した配水池及びポンプ施設の更新を計画的に進め、耐震性能を有する配水施設に再構築します。

配水場施設再構築のイメージ



災害対策編①

～緊急連絡管整備～



大規模な被害があった場合、近隣の水道事業体と相互に水を融通することで、断水などの影響を低減できるように緊急時の連絡管を整備しています。

相手先	場所	口径
大阪広域 水道企業団	守口市八雲東町 2 丁目	Φ400
	門真市松生町	Φ400
	守口市東郷通 1 丁目	Φ300
大阪市	守口市南寺方中通 1 丁目	Φ150
門真市	守口市菊水通 1 丁目	Φ300
	守口市藤田町 3 丁目	Φ150
寝屋川市	守口市佐太中町 7 丁目	Φ150
	守口市大久保町 4 丁目	Φ150
	守口市佐太中町 7 丁目	Φ200

災害対策編②

～応援協力体制の構築・訓練活動～

大規模災害時での応急給水に必要な資機材や給水車の点検整備を継続的に実施しており、発災後は「水」の安全性を確認した上で、水道局による応急給水活動のほか、水道関係事業者と「応援協定」を締結し、各応急給水場所へ水を届ける体制を整えています。

また、大阪府及び日本水道協会大阪府支部を通じ、大阪広域水道企業団や大阪府内の水道事業体等と、大規模地震の発生を想定した情報伝達訓練及び応急給水訓練への参加や、水道局全職員による応急給水訓練を実施するなど、災害対策に取り組んでいます。



職員による応急給水訓練の様子